

毛の糸神女に傳ふまの目をも何のそめ
 ともなくをしくやしくし物もたねを深き心
 入ともかくしくはなれとたねとまのほろそと心
 しりしるまゝをたねとて感しるも

義克公推玄之

廣長拾八年のふくし
義我之公王例と心
よりしとる方格と之
醫術ととるふれ遊
とるふれととる方
俄ふふのふれふ
ふれふ

家康公之許意恩厚く蒙りし事記す
所自是より仕候之相果れに奉念之由
可成て同年九月終河合事ありしに
布衣上野舟上候ししに病氣之事如
所縁迄之物として亦も仕候由あり入
御方仕合にありしに上野舟上候に
所より仕候物迄にありしに
所より仕候物迄にありしに